

「産業保健における復職ガイダンス」のレビュークエスチョン (RQ) (案)

KQ1：適正な休職

RQ1-1 適正な期間の休職は、復職後の就業アウトカムを向上させるか。

RQ1-2 休職中の傷病手当など経済的支援は、復職後の就業アウトカムを向上させるか。

KQ2：休職中の介入

RQ2-1 休職中の介入\*1は、復職後の就業アウトカムを向上させるか。

\*1 試し出勤／リワーク参加／復職支援プログラム／復職判定会議／

KQ3 復職の判断

RQ3-1 主治医の復職の判断としてどんな指標が有用か。

一般的な労務が可能なレベルの指標：生活リズム表／体力／コミュニケーション

RQ3-2 会社の復職の判断としてどんな指標が有用か。

要求された就労が可能なレベルの指標：作業能力

KQ4 主治医との連携

RQ4-1 主治医との連携\*2は復職後の就業アウトカムを向上させるか。

\*2 臨床情報-勤務状態の記録 (fit-note など)／復職専用診断書／産業保健スタッフの受診同伴

KQ5 家族との連携

RQ5-1 メンタルヘルス不調で休職中の従業員に対して、家族からの支援は復職後の就業アウトカムを向上させるか。

KQ6 復職時の就業上の配慮

RQ6-1 復職時の就業上の配慮\*3は、復職後の就業アウトカムを向上させるか。

\*3 時短勤務、時間外勤務制限／配置転換 (⇔元職場復帰)／業務制限／復職支援

KQ7 体調不良者に対する介入

RQ7-1 体調不良者に対してどんな介入\*4を行うと休職を減らすか。

\*4 早期配置転換／早期に主治医と連携／生活指導・栄養指導／Psychosocial wellness program